

平成20年度 福祉・障害児教育研究所事業報告

菊池 信子

KIKUCHI Nobuko

平成20年度の福祉・障害児教育研究所の主な活動は以下のとおりである。

I 平成20年度の福祉・障害児教育研究所シンポジウム

1 平成20年度第1回シンポジウムは、平成20年7月5日(土)に本学学生会館記念講堂において開催された。

時 間：13：30～16：30

テーマ：「高齢者虐待を防ぐまちづくりをめざして
私たちができること」

I部 創作劇

「地域で支えよう！本当に知っていますか、認知症のこと」

脚本・解説：段 真奈美 氏 (社会福祉士)

出演：福祉臨床学科 菊池ゼミ4年生

(田中しおり、谷口真依、高田真弥、
山本奈美子、森下優子、羅曼利、
陳小娟、張震平)

福祉臨床学科 教職員

(菊池信子、高橋昌子、重野妙実、
古野愛子、篠原由利子、美藤早苗)

II部 シンポジウム

シンポジスト：

中嶋 展也 氏 (弁護士)

宮安 正子 (ほくとあんしんすこやかセンター
社会福祉士)

福祉臨床学科4年生

谷口真依、高田真弥 (劇の出演をとおして)

コーディネーター：

重野 妙実 (福祉臨床学科講師)

参加聴衆者：地域住民等学外参加者 約106名

本学学生教職員 約104名

本シンポジウムは、神戸市北区社会福祉協議会と共催で開催され、後援として、神戸市、神戸市教育委員会、神戸市社会福祉協議会、神戸市北区民生委員児童委員協議会、北区南部地区社会福祉協議会、兵庫社会福祉士会、げんき KOBE からの協力が得られた。その結果、多くの地域住民の参加が得られた。また、事前に読売新聞、神戸新聞等への取材・予告掲載がされ、広報の成果が感じられる会となった。

昨今増加する認知症の人への理解と、地域社会とともに暮らす住民として知っておくべき予備知識、対応の配慮等、劇やビデオを含め、ビジュアル的にわかりやすい表現を意識し、学生、教員が演者になったことにより、親近感をもって理解していただくことができた。また、成果は本学論叢に掲載した。

2 平成20年度の2回目の福祉・障害児教育研究所シンポジウムは、平成20年10月24日(金)に本学412教室において開催された。

時 間：13：00～16：00

テーマ：「臓器移植(腎移植)現状と未来を語る」

シンポジスト：

川瀬 喬 氏 (兵庫県臓器移植推進協議会
事務局長)

菊地 耕三 氏 (兵庫県臓器移植推進協議会
副会長)

コーディネーター：

田中希代子 (福祉臨床学科講師)

進行・コーディネーター：

安藤 忠 (福祉臨床学科教授)

参加聴衆者：2部構成で、聴衆学生、教員は前後
半入れ替えて延べ 約146名

外部者 4名

本シンポジウムは、「障害者福祉論」の重要課題の1つとして、障害のある人々の生活実態について知識を得ることはできるが、難病に悩む人々については、学びの機会が少ないということを動機としている。そこで、臓器移植（腎移植）の関係者2氏に、その実態と課題について動向の報告をしていただき、実態と課題について考える機会となった。

「障害者福祉論」「福祉臨床専門演習Ⅱ」「社会福祉援助技術演習Ⅳ」等を読み替えて、学生には、2部構成のうちの1部分の時間は聴講できるよう配慮され、障害者の生活問題の学びに広がりを見いだすことができた。

Ⅱ 研究グループの活動

1 ダウン症児子育て支援講座

ダウン症児子育て支援講座は、石岡准教授を中心とした研究グループで、毎月1回（平成20年度は年間10回開催）、ダウン症児とその家族への支援講座を開催した。

内容は、毎月1回日曜日にダウン症児（概ね12～13組）とその家族に対して子育て支援としてのグループ療育を行ったというものである。ダウン症児とその兄弟姉妹に対しては、主に音楽遊びや制作遊びを中心とした発達支援プログラムを提供し、その保護者に対してはピアカウンセリングを実施した。

2 自閉症児個別支援プログラム

自閉症児個別支援プログラムは、石岡准教授を中心に、毎月2回、自閉症児とその保護者に対して開催（1ケース年間24回開催）した。

内容は、毎月2回土曜日に自閉症児とその保護者（6組）に対して個別プログラムを提供するものである。自閉症児に対しては時間的・物理的に構造化した環境を設定し、主に学習課題獲得のためのプログラムを提供し、その保護者に対しては個別のコンサルテーションを実施した。

上記2つのプログラム活動は、地域の発達障害児の早期教育の研究・開発、障害児を養育する親へのエンパワメント、コンサルテーションの実践を伴う研究活動であり、利用者側からは好評を得ている。

まとめ

平成20年度の福祉・障害児教育研究所の主な活動は、以上のとおり、継続性、利用者効果の手応え、研究実績としての活字化（論文）として、順調に実績を伸ばしている。